

事業所名	従業員規模	所在地	支援テーマ	支援回数
A農園	5人 (うち臨時雇用4人)	愛媛県	経営診断による経営改善と栽培技術の向上	専門家派遣回数 6回

相談内容・現状課題

■相談内容

5年前に農業法人を設立し、地域の農地を集積しながら、米麦と野菜を栽培。3年目頃から野菜の収量が低下し、販売額が減少。創業時に借入した資金(温室、農業機械)の償還が始まる中、経営が悪化しており、経営を改善したい。

■現状課題等

・地域の雇用の場づくりを目的に高齢者を多く雇用したため、作業能率が悪く、労働生産性が低い。

・野菜の栽培面積や品目が多く、作業が間に合わず生産額が上がっていない。

・雇用者も含め農業経験者がいないことから、栽培知識が乏しく技術水準も低い。農協OBを顧問として雇用しているが、十分とはいえない。



土壌改善前

相談所の支援体勢・伴走支援チームからの改善提案(問題解決方法)

■支援内容

中小企業診断士、野菜栽培の専門家、普及指導員を中心とした支援チームを編成。農業法人の代表からの聞き取りや野菜栽培ハウスの現地調査、出荷伝票と決算書を基にした経営分析、収量が低下した温室の土壌診断を踏まえ、経営・栽培改善策をとりまとめた。

1. 経営改善策

- (1) 経費に占める労務費の割合が高く経営を圧迫しているため雇用削減を実施
- (2) 栽培品目のABC分析結果を踏まえた品目整理
- (3) 経営状況について雇用者と経営改善の共通意識を醸成



現地での栽培指導

2. 野菜栽培の改善策

- (1) 収量低下の原因である土壌に集積した塩類の除塩
- (2) 収益性の低い野菜品目から果樹など比較的労力が少ない栽培品目に転換
- (3) 肥培管理方法の見直し



土壌改善後

支援の成果・その後の状況

■支援の成果・その後の状況

1. 経営改善策

- (1) 雇用を見直し、従業員を3名、臨時雇用を7名削減した(15名→5名)。
- (2) 経営的に安定している米麦を経営の中心とする営農計画に見直すとともに、規模拡大を図った(10ha→16ha)。
- (3) 野菜は収益性の高い品目に集約した(12品目→8品目)。

2. 野菜栽培の改善策

- (1) 湛水による除塩
 - (2) 果樹のアボガドを温室に定植
 - (3) 基肥施肥量を改善
- これらの取組により粗利益が黒字となり(△800万円→150万円)、経営が改善した。



チームによる経営改善指導

■コーディネーター所感

会社経営の経験がある相談者に対して経営分析等に基づき明確な問題点と改善点を示すことができ、経営相談が目標を失いつつあった経営を再構築するきっかけとなった良い事例である。相談者の今後の更なる経営改善に期待したい。